

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年4月1日

事業所名 音楽療育特化型事業所 リズムストーリー西浦

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	音楽療育プログラムを実施するにあたり、必要な	ヒヤリハットの事例をもとに、必要に応じ環境を整える。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	音楽療育プログラムを実施するにあたり必要な人員を	定期的に研修を行い、職員の専門性を高め、より良い支援を目指す。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	音楽療育プログラムを実施するにあたり、構造化され	環境整備の観点から、利用者様の状態に合わせて改善する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	毎朝のミーティングでプログラムや支援について振り返りをしている。	業務内容の他、プログラムの内容についてもPDCAサイクルの観点から改善していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	今年度より実施している。	いただいたご意見を職員間で共有するとともに改善に向け会議を実施する。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	今年度より実施している。	事業所ホームページにて公表する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	83%	17%	音楽療育の母体となる音の森へ現状の報告、評価をいただくよう検討中。	評価に対する業務改善を行う。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	定期的に研修を行っている。	研修を持ち回りで担当していくことで、さまざまな内容の理解を深められるようにする。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	標準化されたアセスメントツールを使用しアセスメントを実施している。	アセスメントの内容をもとにアプローチの方法を職員全体で参画する。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	標準化されたアセスメントツールを使用しアセスメントを実施している。	標準化されたアセスメントツールを使用し、子どもの支援方法を計画する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	ミーティングを通じ職員全員で立案している。	現在の利用者様にあった内容をチームで立案し、改善していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	飽きがないよう定期的に内容を変更している。	日々支援内容を振り返り、職員が共通の認識をもってプログラムを計画する。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	67%	33%	月単位で目標を設定し、達成に向けプログラムの内容	子どもの発達や課題に合わせ、適切な目標が設定できるよう計画する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	子ども一人ひとりにあった支援計画を作成している。	個別のプログラムだけでなく、子ども同士が関わりを持てるプログラムを計画する。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	毎朝ミーティングで確認している。	支援の内容や、送迎などの業務についてミーティングで確認する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	支援終了後、翌朝に振り返りを行っている。	支援内容を振り返り、よかったところや改善点を共有する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	個別支援計画をもとに支援内容を記録している。	継続して支援計画をもとに記録をとる。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	定期的なモニタリングの実施と懇談を通じ個別支援計画の見直し	日々のミーティングや支援記録をもとに定期的にモニタリングを行う。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%	個別支援計画に記載し、同意を得ている。	今後ともご理解を得られるよう適切な説明を心がける。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	83%	17%	子どもの状況について職員間で共通の認識を持ち、管理者が参	サービス担当者会議で持ち得た情報を職員と共有し、同じ方向を向いた支援を行う。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	学校でのご様子を伺い、保護者様に連絡している。	送迎時の連絡体制など、学校の方針を伺いながら協力いただけるよう働きかける。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	83%	17%	現在、医療的ケアが必要な子どもはいないが、連携できる体制を	連携できる体制を維持する。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	83%	17%	情報共有や相互理解に努めている。	継続した支援が行えるよう情報共有や相互理解を図る。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	83%	17%	日頃から支援記録を残し、移行する場合に向け情報を提供できる体制を整えている	支援計画、支援記録を残し、移行する場合に情報を提供できる体制を整える。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	83%	17%	発達検査の結果や意見書の内容を支援に取り入れている	助言や研修内容を積極的に支援内容に取り入れる。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	17%	83%	コロナウイルスの影響を加味しながら検討している	コロナウイルスの影響を加味しながら検討する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	33%	67%	ホームページをもとに情報を得られるようにしている	今後参加していけるようホームページをもとに情報を得、検討する。
保護者への説明責任等	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳や送迎の際に様子を伝えあい、共通の理解を持てるようにしている	事業所やご自宅での様子を共有することで、共通理解を図れるよう取り組む。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	67%	33%	連絡帳や送迎、懇談の際に支援での様子や取り組みについて説	事業所で行っている支援内容や対応を共有するとともに、ご自宅での様子を伺い適切な助言を行う。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約の際、重要事項として説明している。	今後ご理解を得られるよう適切な説明を心がける。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	定期的に懇談を行うほか、電話でも相談を受けられるような体制を	継続してお悩みをご相談いただけるような体制を維持する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%	コロナウイルスの影響を加味しながら検討している	保護者様の意向を考慮し地域支援につながるよう取り組みを検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	電話での相談も受け付け、迅速な対応ができるよう心掛けている	継続してお悩みをご相談いただけるような体制を維持するとともに、迅速な対応を心がける。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	プログラムの内容を定期的に発信ししている	継続してプログラムの内容を発信していくとともに、訓練や研修の内容を発信する。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	契約時に説明し丁寧に扱っている	定期的に研修を行うことで、丁寧に個人情報を取り扱っていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	音楽を使ったコミュニケーションやイラストやカード、コロナウイルスの影響を加味しながら検討して	子どもにあった意思の疎通の方法を日頃から模索し、共通の認識が持てるよう図る。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17%	83%	コロナウイルスの影響を加味しながら検討して	開かれた事業運営を目指し、地域支援につながるような取り組みを検討する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	感染症や自然災害を想定した訓練を行っている。	継続して定期的な訓練を行い、様子を保護者様に発信していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	定期的に訓練を行うとともに備品の確認をしている	継続して定期的な訓練を行い、様子を保護者様に発信していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	定期的に研修を行っている。	継続して虐待防止に向けて定期的な研修、啓発を行う。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	重要事項に記載し同意を得ている。	法人の決定を遵守し、保護者様の理解を得られるよう適切な説明を行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	アセスメントの際に確認し、統一した対応を心がけ	今後も適切な対応ができるよう共通の認識を持つ。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	毎日支援を振り返りヒヤリハットを共有している。	ヒヤリハットの事例を共有するとともに改善方法を検討していく。